

第Ⅴ章 総括

第1節 縄文時代・弥生時代

今回の調査で出土した最古の遺物は、縄文土器である。出土点数は多くはないが、全て後期の宮滝式と考えられる凹線文土器である。長期の定住を示すような状況は認められないが、久留麻地区の海浜部で縄文時代の遺物が出土した例はこれまでになく、当地域における人の活動が縄文時代後期にまで遡ることを示す初めての資料として貴重な成果といえる。

続く弥生時代も土器が中心であるが、その時期は、前期後半～中期前半期の土器(17(Y0006))1点を除けば、全て後期末から庄内式期に限られる。特に、竪穴建物跡から出土した土器は、庄内式期初期段階の一括性の高い土器と考えられ、淡路島における当該期の基準となり得る貴重な資料と位置づけられる。

また、これらの土器に伴い、淡路島の製塩土器編年(浦上1993)でいうところの脚台Ⅰ式～Ⅲ式の製塩土器が出土している。今回は、弥生時代後期末から庄内式期という限られた時期の土器に共伴する資料であり、当該製塩土器の使用年代を示す良好な資料となる。特に、脚台Ⅲ式製塩土器は、従来は布留式期を中心とした使用が想定されてきた(広瀬1988・浦上1993)型式であり、近くに位置する引野遺跡においても布留式期における使用が報告されている(伊藤1999)。しかし、近年、大阪湾岸における脚台Ⅲ式製塩土器の使用開始が庄内式期にまで遡ることが報告されている(積山2004)。淡路島においても、舟木遺跡で庄内式土器との共存が報告されており(伊藤ほか2020)、今回の資料もそれを補強する資料といえよう。

なお、今回出土した製塩土器の中に口縁部や脚端部に叩き原体を用いたとみられる刻み目様の痕跡を残すものが確認されている。口縁部を成形する際、叩き原体を用いた面成形を行うことで端面に刻み目状の痕跡を残す甕は「淡路型甕」と呼称され(森岡2003)、淡路島をはじめ大阪湾岸地域の遺跡で出土例が報告されている(池田2013)。同技法が盛行する後期後半期以降には、甕以外にも鉢や高杯、器台など他の器種にも多用されることが知られている(伊藤ほか2020)が、製塩土器に用いられた例は少なく、^{註1}淡路島においても今回が初めての確認例となる。今回の資料は、こういった技法を用いる集団が、土器製塩を営む人びととも深く関わりを持つことを示す貴重な資料になるものと考えられる。

今回の調査で検出した遺構は、震災復興関連事業という調査の性格上、掘削による損壊を免れる下層遺構の調査は限られた範囲に限定したものとなった。そのため、検出した遺構は竪穴建物跡1棟であったが、弥生時代の遺物包含層は海浜部に向かって東に続くことが確認されており、当該期の遺構はさらに周囲に広がるものと予想できる。

第2節 古代・中世

古代の土器は、須恵器や土師器、黒色土器、緑釉陶器などが出土している。それらの器種は、いずれの土器も坏や埴、皿といった供膳具が多数を占めており、壺がみられず、甕、鍋などの煮沸用具も極僅かに認められる程度である。

その中でも特筆すべきは緑釉陶器であり、完形に復元できる埴が半裁された状態で出土した。軟質の素

地に淡緑色の釉薬を施した土器であるが、高台の特徴などから10世紀初頭から前半期の京都洛北産であり、さらに「て」の字状口縁の土師器皿2点についても9世紀末から10世紀にかけて京都で生産されたものであるとの所見を得た。^{註2} なお、緑釉陶器は、淡路島内においては小さな破片となった土器の一部が出土する報告例はあるが、軟質の陶器が今回のようにほぼ原形を保った状態で出土した例は少なく、古代土器の器種構成とともに、本遺跡が一般的な集落とは性格を異にすることを示唆しているものと考えられる。

また、須恵器では、埴の底部外面にヘラの先端を当て、粘土を削り取ることによって高台を意識する成形技法が認められるもの(44、49、51、52)が存在する。兵庫県相生市に所在する相生窯址群においては瓷器系器種を模倣した須恵器の出現段階に、回転糸切りの平高台を持つ埴の底部側面をヘラ状工具で削って整形するため、側面が内側に切れ込み、高台断面が台形状を呈する器種の存在が報告されている(森内1995)。今回出土した須恵器埴の内、55はそれと同じ技法により成形された底部であり、相生窯址産の須恵器であるとの所見が得られた。^{註3} また、底部の切り離しにはヘラを用いるが、底部側面に同様の技法が看取できる44、49、51も同じ産地であるものと考えられる。一方、焼成の甘い軟質の須恵器が多数存在することや体部に火襷が残る器種などは、兵庫県加古川市に所在する志方窯址群に類似する器種が存在しているほか(森内ほか2000・2001)、その後続く兵庫県神戸市の神出窯跡群にも焼成の甘い須恵器が存在することが知られることから、これら東播地域に所在する窯で焼かれた可能性が高いものと考えられる。^{註4} これらのことは、当該期の須恵器の生産や流通などを知る上で貴重な資料と考えられる。なお、出土した須恵器から与えられる本遺跡の時期は、坏Bが全く存在しない器種構成や糸切り平高台埴が存在することから、相生古窯址群における編年(森内1995)の第3段階に位置づけられるものと考えられ、9世紀後半から10世紀前半にあるものと想定できる。

さらに黒色土器は、体部外面に並行する多数の段が認められ、須恵器生産と共通する回転を利用した製作技法が用いられている。現在、このような特徴を持った黒色土器の産地を特定することはできないが、特徴ある黒色土器として生産地や製作時期の確認は今後の課題としておきたい。

一方、遺構はⅣ地区を中心に営まれ、大きく2時期の変遷がうかがえる。先行するⅠ期は、同一建物の建て替えと想定できる2棟の掘立柱建物(SB-102・103)と、それと方位を同じくする柵(SA-102)が存在する。この柵(SA-102)は、若干方向がずれる柱列が重複しており、建物の建て替えと同時に作り直されている可能性もある。建物を検出した範囲は、北西隅にあたる梁及び桁行の1間ずつの柱穴であるが、柱間はいずれも2.4mの等間であるほか、同時に存在した可能性が高い柵(SA-102)との距離も2.1mであるなど、規格性の高い建物配置が認められる。後出するⅡ期の建物(SB-101)も建て替えを受けた後の建物(SB-102)と建物方位が同じであり、これら建物の間隔が約3mであることから、併存したことも考えられる。そうであれば、同一敷地内での増築、あるいは建物配置の変更などが行われたことが想定できる。この建物(SB-101)にも西に2.7m離れた位置に建物と方位を同じくする柵(SA-101)が存在しており、柵も同時に建て替えられた可能性がある。なお、この柵(SA-101)の南端の柱穴2基は他の柱穴に比べ深く掘られているほか、柱間も2.4mと他の柱間よりも広くなっており、この柱間に敷地内へ通じる出入口が置かれたことが想定できる。その間に掘られたピット(SP-48)から鉄鏝1点が出土した。これは、建物が建つ敷地と外とがつながる地点に武器である鉄鏝を埋めることで、内と外とを画する儀礼的な意味合いを持った行為を示す遺構の可能性はある。

また、Ⅱ期の建物(SB-101)は、建物西半の柱穴6基が検出されたものであるが、その内の4基からは緑釉陶器埴、黒色土器埴、須恵器皿、イイダコ壺がそれぞれ出土した。それらの土器はいずれも

原形に復元できる形状のもので、柱を抜き取った後に一部を打ち欠くか割った状態で埋められた様相が看取できる。さらに北西隅の柱穴はイイダコ壺を埋めた後に板状の石を置き、柱穴に蓋をしたかのような状況がうかがえた。古代の建物廃棄に伴い一部を打ち欠く土器を埋納する祭祀の事例（糸川2009）があるように、この状況も建物の廃絶時に行われた儀礼的な行為であることが想定できる。

なお、今回の調査で検出した古代の遺構が存続した時期は、出土した須恵器の年代から9世紀後半から10世紀前半にあるとみることができる。その中でⅡ期に営まれた掘建柱建物（SB-101）の柱穴から出土した土器が建物廃絶に伴い埋められたものとするならば、緑釉陶器が示す10世紀前半が建物群の最終段階と位置づけることができ、大きな断絶無く移り変わる様子が看取できる古代の建物群は、10世紀前半を中心とする時期に営まれたものと想定しておきたい。

また、これらの遺構が廃絶した後については、瓦器碗と土師質の土鍋の破片がそれぞれ1点出土しているに過ぎず、本遺跡において居住した様子をうかがうことはできない。言い換えれば、古代の遺構群が廃絶して以降、中世にかけての集落域が大きく変化したものと考えられる。

第3節 まとめ

今回の調査では、縄文時代、弥生時代、平安時代、室町時代の土器が出土しているが、弥生時代と平安時代には人が居住し、活動していたことをみることができる。なかでも平安時代については、規格性に富んだ建物配置や多様な儀礼的行為が行われた可能性のある遺構が検出されている。板塀で囲われた中に規格的に配置された建物が建ち並ぶ風景は、出土した土器からも想定されるように、一般的な集落とは異なる階層の建物群であることがうかがえる。

古代淡路島においては、2郡17郷^{註5}が置かれたことが『和名類聚抄』に記されている。その中の来馬郷は平城宮出土木簡^{註6}などからも存在が確実視されている郷であり、地名から本遺跡が所在する久留麻地域にその場所が比定される。本遺跡の北約700mの今出川河口部には延喜式内社である伊勢久留麻神社が所在し、隣接する内町遺跡では古代の布目瓦が出土している。また、海浜部においては古墳時代～奈良・平安時代に営まれた大規模な製塩遺跡である並松遺跡や一本松遺跡が存在し、一本松遺跡からは皇朝十二銭である和同開珎と隆平永寶が出土している。これらの状況から、今出川河口域に古代来馬郷の中心域が存在したことが想定できる。そのような環境にあつて、出土した遺物や建物群の特徴などから一般的な集落とは性格を異にすると考えられる本遺跡は、古代来馬郷との関係が深い遺跡と考えることが可能性である。しかし、緑釉陶器が地方では政庁などの官衙中枢部から出土する例が必ずしも多くなく、私的空間の奢侈品として用いられたとの指摘もある（尾野2002）ことや、郷の中心域から一定の距離を置く位置に存在することから、公的役割を担う空間との関係が深い人物の私的空間との評価ができるのではなかろうか。そうであるとすれば本遺跡の廃絶時期は、来馬郷の盛衰との関係においても重要な視点を与えてくれる可能性が高く、律令社会から中世社会へ移行する地域の様相を理解する上でも重要な遺跡であるものと評価できる。

なお、蛇足ではあるが、そのような遺跡であるにもかかわらず、イイダコ壺や土錘といった漁具を伴う点の特徴的であり、海との関係が深い淡路島を象徴しているものといえよう。さらに、直接的なつながりを想定することはできないが、弥生時代の遺構においても製塩土器が伴っていることは古代と同様に海とのつながりの深さを象徴しており、その特徴がすでに弥生時代にもうかがえる点は興味深いものである。

註

- 1 大阪府堺市下田遺跡出土のA類に分類されている初期段階の製塩土器の口縁部に、同様の技法が認められるものが存在する。
- 2 緑釉陶器や「て」の字状口縁の土師器皿の時期や産地については、平尾正幸氏の指導を得た。
- 3 森内秀造氏に出土遺物を実見いただき、指導を得た。
- 4 註3に同じ。
- 5 和名抄では17郷の存在が記されるが、律書残篇では11郷となっている。
- 6 平城宮第一次大極殿院地区西楼から天保勝宝4（752）年に淡路国来馬郷から調（塩か）三斗を送った荷札木簡が出土している。

参考文献

- 池田毅 2013「淡路型甕の類型―調整手法の差異とその特殊性―」『みずほ別冊 弥生研究の群像―七田忠昭・森岡秀人・松本岩雄・深澤芳樹さん還暦記念―』大和弥生文化の会
- 伊藤宏幸 1999『引野遺跡発掘調査概要』東浦町教育委員会・東浦町
- 伊藤宏幸ほか 2020『舟木遺跡1（B・D地区の調査）』淡路市教育委員会
- 糸川道行 2009「奈良・平安時代における竪穴建物廃棄の祭祀」『研究連絡誌』70 千葉県教育振興財団文化財センター
- 浦上雅史 1993「淡路島の製塩遺跡」『淡路島の古墳時代』洲本市立淡路文化史料館
- 尾野善裕 2002「平安時代における緑釉陶器の生産・流通と消費―尾張産を中心に（古代・中世の都市をめぐる流通と消費）―（古代の流通経済）」『国立歴史民俗博物館研究報告』第92号 国立歴史民俗博物館
- 積山洋 2004「大阪湾沿岸の古墳時代の土器製塩」『季刊考古学別冊 畿内の巨大古墳とその時代』雄山閣
- 広瀬和雄 1988「近畿地方における土器製塩」『考古学ジャーナル』298 (株)ニューサイエンス社
- 森内秀造 1995『相生市・緑ヶ丘窯址群Ⅱ』兵庫県教育委員会
- 森内秀造ほか 2000『志方窯跡群Ⅰ―中谷支群―』兵庫県教育委員会
- 森内秀造ほか 2001『志方窯跡群Ⅱ―投松支群―』兵庫県教育委員会
- 森内秀造ほか 2011『神出窯跡群Ⅲ―神出鴨谷1号窯～3号窯・神出梶谷1号窯―』兵庫県教育委員会
- 森岡秀人 2003「「淡路型」叩き甕の提唱と摂津―環瀬戸内海をめぐる交流の一要素―」『初期古墳と大和の考古学』学生社

表1 遺物観察表

縄文土器

遺物No	器 種	出土地点（遺構）	出土層位	法 量（cm）	残存率（%）	形態・技法の特徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
1 J 0001	縄文土器	深鉢	No.3調査区	黒褐色砂	器高：2.8（残存高）	5	外面：凹隈文 内面：不明	外：にぶい焼 7.5YR 7/2 内：焼成 7.5YR 7/2	やや粗い 石英、長石多量	良好
2 J 0004	縄文土器	深鉢	No.2調査区	黒色砂	器高：2.9（残存高）	5	外面：凹隈文 内面：条痕	外：焼 7.5YR 7/6 内：焼 7.5YR 6/6	やや粗い 石英、長石多量	良好
3 J 0005	縄文土器	深鉢	No.2調査区	黒色砂	器高：3.5（残存高）	5	外面：凹隈文 内面：条痕	外：にぶい焼 7.5YR 5/3 内：にぶい焼 7.5YR 6/3	やや粗い 石英含む	良好
4 J 0007	縄文土器	浅鉢	No.2調査区	黒色砂	器高：3.6（残存高）	5	内外面：条痕	外：にぶい焼 7.5YR 6/4 内：にぶい焼 7.5YR 6/4	やや粗い 石英含む	良好
5 J 0005	縄文土器	深鉢	No.2調査区	黒色砂	器高：4.4（残存高）	5	外面：凹隈文、条痕 内面：条痕	外：にぶい焼 10YR 7/4 内：にぶい焼 7.5YR 6/4	やや粗い 石英含む	良好
6 J 0008	縄文土器	浅鉢 口縁部	Eトレンチ SP-U3（SB-101）	口径：18.8（復元） 器高：3.9（残存高）	5	外面：凹隈文 内面：不明	外：黄 2.5Y 7/2 内：黄 2.5Y 7/3	粗い 石英、長石含む	良好	

弥生土器

遺物No	器 種	出土地点（遺構）	出土層位	法 量（cm）	残存率（%）	形態・技法の特徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考	
7 Y 0001	弥生土器	甕	Eトレンチ松張区 SH-201	口径：18.5（復元） 底径：23.3（復元） 底径：4.1 器高：25.5	70	口縁部：ヨコナデ 外面：右肩上がり、体部中央は横方向平直、縦 方向に引っかけ様の彫痕あり 内面：ナデ 底部：ドーナツ状に中央部が凹む	内外：にぶい焼 7.5YR 5/4	精良 石英、長石含む	良好		
8 Y 0010	弥生土器	甕	Eトレンチ松張区 SH-201	口径：14.8（復元） 器高：5.8（残存高）	5	口縁部：ヨコナデ 体部外面：叩きの後ナデ 体部内面：板ナデ	内外：にぶい焼 5YR 7/4	精良 石英多く含む	良好		
9 Y 0009	弥生土器	甕	Eトレンチ松張区 SH-201	底径：4.4 器高：3.3（残存高）	10	内面：板ナデ 外面：縦方向のナデ 底部外面：ヨコナデ	内外：にぶい黄焼 10YR 6/3	精良 石英、長石、クサリ鎌含む	良好		
10 Y 0011	弥生土器	甕	Eトレンチ松張区 SH-201	口径：11.8（復元） 器高：1.0（残存高）	5	内外面：ヨコナデ 底部を上方向へつまみ上げる	内外：焼成 7.5YR 4/1	精良 石英含む	良好		
11 Y 0007	弥生土器	甕	Eトレンチ松張区 SH-201	口径：19.2（復元） 器高：3.3（残存高）	5	外面：縦方向の板ナデ、前後三角形の粘土帯を貼 りつけた面に竹節文を施文する円形厚文を 貼りつけ、上下をへら状工具による刻み目文 内面：板ナデ	外：焼 7.5YR 6/6 内：焼 7.5YR 7/6	精良 砂粒少量、長石含む	良好		
12 Y 0012	弥生土器	甕	Eトレンチ松張区 SH-201	器高：16.8（復元） 器高：5.0（残存高）	10	外面：縦方向の板ナデ、前後三角形の粘土帯を貼 りつけた面に竹節文を施文する円形厚文を 貼りつけ、上下をへら状工具による刻み目文 内面：板ナデ	外：にぶい焼 7.5YR 6/4 底径 7.5YR 5/1 内：焼 5YR 6/6	やや粗い 石英、長石含む	良好		
13 Y 0002	弥生土器	高杯	Eトレンチ松張区 SH-201	口径：23.0（復元） 器高：6.1（残存高）	20	口縁部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 底部外面：ナデ	内外：にぶい黄焼 10YR 5/4	精良 石英、長石、金雲母含む	良好		
14 Y 0003	弥生土器	高杯	Eトレンチ松張区 SH-201	口径：12.6（復元） 器高：4.4（残存高）	30	口縁部：ヨコナデ 体部内外面：ナデ	内外：焼 7.5YR 6/8	精良 石英、長石含む	良好		
15 Y 0004	弥生土器	高杯	Eトレンチ松張区 SH-201	脚柱高：1.5（残存高） 脚柱高：4.2（復元）	30	体部外面：ナデ 体部内面：へらミガキ 脚柱外面：へらミガキ 脚柱内面：ナデ、工具痕 底部に円形透孔（3穴）	内外：焼 10YR 4/6	精良 石英、長石、クサリ鎌含む	良好		
16 Y 0008	弥生土器	高杯	Eトレンチ松張区 SH-201	底径：15.0（復元） 器高：3.4（残存高）	10	外面：縦方向のハケの後ナデ、縁部ヨコナデ 内面：縦方向のナデ、縁部ヨコナデ 透孔5穴（復元）、2穴が残存	外：にぶい黄焼 10YR 6/4 内：にぶい焼 7.5YR 6/4	精良 砂粒少量	良好		
17 Y 0006	弥生土器	甕	Eトレンチ松張区		5	外面：へら掛き多量沈線と横状文で加飾 内面：ヨコナデか？	外：にぶい焼 7.5YR 7/4 内：焼成 5YR 5/1	やや粗い 1～3mm大の砂粒含む、チャート多量、 石英、長石含む	良好		
18 Y 0030	弥生土器	甕	No.2調査区	黒色砂	器高：2.7（残存高）	5	内外面：ヨコナデ	外：にぶい焼 5YR 6/4 内：にぶい焼 7.5YR 7/4	やや粗い 石英、長石含む	良好	
19 Y 0031	弥生土器	甕	No.3調査区	黒色砂	口径：23.7（復元） 器高：2.1（残存高）	5	外面：ヨコナデ 内面：縦方向のハケの後ヨコナデ 口縁部外面に叩き	外：灰黄焼 10YR 6/2 内：にぶい黄焼 10YR 6/2	やや粗い 石英、長石含む	良好	
20 Y 0024	弥生土器	甕	No.3調査区	黒褐色砂	口径：6.6（復元） 底径：7.6（復元） 器高：3.6（残存高）	10	内外面：ナデ 体部内面：板ナデ	外：にぶい焼 7.5YR 7/3 内：にぶい焼 7.5YR 6/4	精良	ミニチュア土器か	
21 Y 0027	弥生土器	甕	No.3調査区	掛土	底径：4.1 器高：3.3（残存高）	30	外面：ナデ 内面：ハケ又は板ナデ 底部外面：ドーナツ状に中央が凹む	内外：淡黄焼 7.5YR 8/4	精良	良好	
22 Y 0017	弥生土器	甕	Eトレンチ松張区 SH-403	底径：4.7（復元） 器高：2.6（残存高）	10	外面：叩き（右下がり） 内面：彫痕のため観察不能 底部外面：ドーナツ状に中央が凹む	外：にぶい焼 7.5YR 7/4 内：灰焼 7.5YR 6/2	やや粗い 1～3mm大の砂粒多量（花崗岩粒）	良好		
23 Y 0005	弥生土器	甕	Eトレンチ松張区	底径：3.8 器高：1.9（残存高）	10	外面：叩き 内面：板ナデ（工具痕あり） 底部：ドーナツ状に中央が凹む	外：にぶい黄焼 10YR 6/4 内：にぶい黄焼 10YR 7/3	やや粗い 石英、長石含む	良好		
24 Y 0028	弥生土器	甕	No.3調査区	口径：14.0（復元） 底径：18.0（復元） 器高：13.3（残存高）	40	口縁部：外面を縦、内面を横方向のハケ調整の後 ナデ調整、縦面に叩き 体部外面：叩き（右上がり） 内面：板ナデ 口縁部のナデ調整があまく、歪みが大きい	外：焼 7.5YR 6/6 内：にぶい焼 7.5YR 6/4	やや粗い 石英、長石、クサリ鎌含む	良好	外面にスス付着	
25 Y 0032	弥生土器	甕	No.3調査区	黒褐色砂	底径：20.6（復元） 器高：8.4（残存高）	20	外面：叩き（右上がり） 内面：ハケ	外：にぶい黄焼 10YR 6/3 内：にぶい黄焼 10YR 7/4	やや粗い 石英、長石含む	良好	
26 Y 0033	弥生土器	甕	No.3調査区	黒褐色砂	口径：14.0（復元） 器高：2.9（残存高）	10	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：ミガキ	内外：にぶい黄焼 10YR 6/4	やや粗い 石英、長石含む	良好	
27 Y 0029	弥生土器	甕	No.3調査区	黒褐色砂	口径：10.8（復元） 器高：2.5（残存高）	20	口縁部：ヨコナデ 外面：ハケ 内面：ミガキ	外：焼 7.5YR 4/6 内：焼 7.5YR 6/6	やや粗い 石英、長石含む	良好	
28 Y 0026	弥生土器	高杯	No.3調査区 ピット	脚柱高：3.9 器高：2.6（残存高）	20	外面：ナデ（板状工具痕） 内面：ナデ 体部内面：ナデ 2箇所の透孔あり	内外：にぶい焼 7.5YR 7/4 にぶい焼 7.4YR 6/4	精良	良好		
29 Y 0023	弥生土器	高杯	No.3調査区	黒色砂	底径：8.4（復元） 器高：1.6（残存高）	10	外面：ナデ 内面：板ナデ φ2mm程度の透孔	外：にぶい焼 7.5YR 7/4 内：にぶい焼 7.5YR 6/4	精良	ミニチュア土器か	
30 Y 0025	弥生土器	高杯 又は 付付き鉢	No.3調査区	黒色砂	器高：3.5（残存高）	20	外面：ナデ 内面：板ナデ 底部内面：ハケ	外：にぶい焼 7.5YR 6/4 内：にぶい黄焼 10YR 6/4	やや粗い 石英、長石、クサリ鎌、雲母含む	良好	

古代の土器

遺物No	種 別	器種	出土地点（遺構）	出土層位	法 量（cm）	残存率（%）	形態・技法の特徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
31 Y 0006	須恵器	皿	Eトレンチ 松張区 SP-U03（SB-101）	口径：18.0（復元） 器高：3.8（残存高）	30	内外面：回転ナデ	内外：青灰 10B5/1	やや粗い 長石多量	良好	志方産	
32 Y 0006	須恵器	埴	Eトレンチ SP-U03（SB-101）	口径：13.8（復元） 器高：3.3（残存高）	10	内外面：回転ナデ 口縁部外面に横直の彫痕	内外：灰白 5Y7/1	精良 1mm大石英、長石少量	不良(軟質)		
33 Y 0004	須恵器	皿	Eトレンチ SP-U01（SB-101）	口径：14.6（復元） 器高：3.5（残存高）	20	内外面：回転ナデ	内外：青灰 5B6/1	精良	良好	志方産 内外面に火傷	
34 Y 0008	須恵器	皿	Eトレンチ 松張区 SP-U08（SB-101）	口径：17.2（復元） 底径：7.6（復元） 器高：2.0	30	体部内外面：回転ナデ 底部外面：へら切り	内外：灰白 7.5YR 8/1	粗い 1～3mm大石英、長石多量	不良(軟質)	志方産	
35 Y 0009	須恵器	埴	Eトレンチ 松張区 SP-U08（SB-101）	口径：14.9（復元） 器高：4.1（残存高）	20	内外面：回転ナデ	内外：灰 10Y6/1	精良 長石、チャート多量	良好		
36 Y 0007	須恵器	杯	Eトレンチ SP-U03（SB-101）	口径：13.8（復元） 器高：3.0（残存高）	10	内外面：回転ナデ	内外：灰白 5YR 8/2	精良	不良(軟質)		
37 Y 0012	須恵器	杯	Eトレンチ 松張区 SP-U26（SB-102）	底径：8.0（復元） 器高：2.2（残存高）	20	体部内外面：回転ナデ 底部外面：へら切り	内外：灰白 5YR 8/1	精良	不良(軟質)		
38 Y 0013	須恵器	埴	Eトレンチ 松張区 SP-U28（SB-102）	底径：6.6 器高：2.8（残存高）	50	体部外面：回転ナデ（一部自然磨付着） 体部内面：回転ナデ 底部外面：へら切り 底部内面：回転ナデ 貼りつけ剥がれ	外：暗青灰 5B3/1 内：青灰 5P9/1	精良 長石、チャート多量、 1mm大石英、石英含む	良好	志方産	
39 Y 0014	須恵器	杯	Eトレンチ SP-U05（SA-102）	口径：13.8（復元） 器高：4.0（残存高）	10	内外面：回転ナデ	外：黄灰 2.5Y6/2 内：灰白 2.5Y7/1	精良	不良(軟質)		
40 Y 0015	須恵器	杯	Eトレンチ 松張区 SP-U52	底径：10.6（復元） 器高：2.1（残存高）	10	体部内外面：回転ナデ 底部外面：へら切り	外：灰黄 2.5Y7/2 内：灰白 2.5Y7/1	精良	不良(軟質)		
41 Y 0020	須恵器	杯	Hトレンチ SP-U02	底径：6.0（復元） 器高：1.0（残存高）	5	内外面：回転ナデ	内外：淡黄 2.5Y6/3	精良 石英、長石含む	不良(軟質)		
42 Y 0030	須恵器	杯	Eトレンチ 松張区	底径：9.0（復元） 器高：1.6（残存高）	10	体部内外面：回転ナデ 底部外面：へら切り	内外：にぶい黄焼 10YR 7/2	やや粗い 長石、石英含む	不良(軟質)		
43 Y 0031	須恵器	皿	Eトレンチ 松張区 SP-U23	底径：8.0（復元） 器高：1.7（残存高）	20	体部内外面：回転ナデ 底部外面：へら切り	内外：淡黄 2.5Y7/3	精良 石英、長石含む	不良(軟質)	相生産	
44 Y 0020	須恵器	埴	Eトレンチ 松張区 SP-U21	底径：8.3 器高：2.7（残存高）	70	体部内外面：回転ナデ 底部内面：中心部ナデ。周辺部回転ナデ 底部外面：へら切り 体部の立ち上がりは内湾気味	内外：灰白 5Y7/1	やや粗い 石英、長石、チャート含む	やや不良 (やや軟質)	相生産	
45 Y 0022	須恵器	杯	Eトレンチ 松張区 SP-U32	底径：7.8（復元） 器高：1.9（残存高）	10	体部内外面：回転ナデ 底部外面：へら切り	内外：灰白 2.5Y6/2	精良 石英、長石含む	不良(軟質)		
46 Y 0027	須恵器	杯	Eトレンチ 松張区	底径：6.4（復元） 器高：2.2（残存高）	30	体部内外面：回転ナデ 底部外面：へら切り	外：淡黄 2.5Y7/3 内：黄灰色 2.5Y4/1	精良	良好	志方産 体部外面に火傷	
47 Y 0021	須恵器	杯	Eトレンチ 松張区 SP-U32	口径：13.4（復元） 底径：8.8（復元） 器高：4.1	20	体部内外面：回転ナデ 底部外面：へら切り	内外：灰白 5Y7/2	精良 石英、長石含む	やや不良 (やや軟質)		
48 Y 0026	須恵器	杯	Eトレンチ 松張区	口径：13.6（復元） 底径：7.4（復元） 器高：4.0	40	体部内外面：回転ナデ 底部外面：へら切り	内外：灰白 5Y7/2	粗い 石英、長石、チャート多量	不良(軟質)	志方産	

通称No	種 別	別種	出土地点(遺構)	出土層位	流量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色 調	陶 土	焼 成	備 考
49	U0023	須恵器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-32	底径: 8.0 高径: 1.0 (残存高)	40	内面: 回転ナデ (磨面があり、平滑) 底部外面: ヘラ切り 底縁部は、へうで粘土を削り取り、面が形成され、側面にへう面による一帯の窪みがある 底部外面は、打ち交差の可能性がある	外: 灰白 5 Y 7 / 2 内: 灰白 5 Y 7 / 1	やや粗い 長石、石英含む	良好	粘土 内部の面だけを残すために、 底部を打ち交した可能性あり 内面は平滑で、平行に走る磨 面あり
50	U0019	須恵器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-21	口径: 12.8 (復元) 底径: 9.2 (復元) 高径: 4.5	30	体部内外面: 回転ナデ 底縁外面: ココナデ	外: 灰 N 6 / 内: 灰 N 5 /	精良	良好	高力質 体部の立ち上がり角強く、 内面気味
51	U0025	須恵器	埴	Eトレンチ 拡張区	口径: 12.6 (復元) 底径: 7.2 (復元) 高径: 3.9	50	体部内外面: 回転ナデ 底縁外面: ヘラ切り	外: 灰 7.5 Y 5 / 1 内: 灰 7.5 Y 4 / 1	精良 長石含む	良好	粘土生 突出する底部縁をへう状工具 で磨る
52	U0024	須恵器	埴	Eトレンチ 拡張区	口径: 14.2 (復元) 底径: 8.5 (復元) 高径: 4.3	40	体部内外面: 回転ナデ 底縁外面: ヘラ切り	内外: 灰黄 2.5 Y 7 / 2	やや粗い 長石含む	不良(軟質)	粘土生 突出する底部縁をへう状工具 で磨る
53	U0001	須恵器	埴	Aトレンチ SP-01	口径: 13.6 (復元) 底径: 9.0 (復元) 高径: 3.9	30	体部内外面: 回転ナデ 底縁外面: ヘラ切り	内外: 灰白 5 Y 7 / 1	精良	不良(軟質)	高力質
54	U0003	須恵器	埴	Cトレンチ	底径: 7.6 (復元) 高径: 2.1 (残存高)	20	体部内外面: 回転ナデ 底部外面: ヘラ切りの後ナデ	外: 灰白 5 Y 7 / 1 内: 灰白 5 Y 7 / 2	精良	良好	
55	U0002	須恵器	埴	Cトレンチ	底径: 7.3 (復元) 高径: 2.3 (残存高)	30	体部内外面: 回転ナデ 底縁外面: 丸切り	内外: 灰白 N 7 / 1	精良 石灰、チャート多量	良好	粘土生
56	H0009	土師器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-27 (SB-102)	底径: 7.6 (復元) 高径: 1.7 (残存高)	10	体部内外面: 回転ナデ 底部内外面: ナデ 前台部外面: 回転ナデ 貼りつけ磨面	外: 緑 2.5 YR 6 / 8 黒 N 2 内: 緑 5 YR 6 / 6	やや粗い 長石含む	良好	
57	H0011	土師器	皿	Eトレンチ 拡張区 SP-29 (SB-103)	口径: 13.2 (復元) 底径: 7.2 (復元) 高径: 2.8	30	内外面: 回転ナデ 底部外面: ヘラ切り 上部 (口縁部付近) 僅かに外反、縁部丸い	内外: にぶい黄 7.5 YR 5 / 4	やや粗い 石灰、長石、クサリ礫含む	やや不良	
58	H0014	土師器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-31 (SB-103)	底径: 7.8 (復元) 高径: 1.2 (残存高)	20	体部内外面: 回転ナデ 底部外面: ヘラ切り	外: にぶい黄緑 10 YR 7 / 3 内: 灰黄緑 10 YR 6 / 2	精良	良好	
59	H0010	土師器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-29 (SB-103)	口径: 12.2 (復元) 底径: 6.8 (復元) 高径: 4.1	40	口縁部外面: 強いナデにより僅かに窪む 体部内外面: 回転ナデ 体部内面: 回転ナデ 底部外面: 回転ナデ	内外: にぶい黄緑 10 YR 7 / 4	精良 クサリ礫、金雲母含む	良好	
60	H0007	土師器	壺	Eトレンチ 拡張区 SP-28 (SB-102)	口径: 22.0 (復元) 高径: 2.3 (残存高)	10	口縁部: ココナデ 体部内外面: タテハケ	外: にぶい緑 7.5 YR 1 / 4 内: 赤褐 2.5 YR 4 / 6	粗い 石灰、長石多量、チャート、 金雲母	良好	
61	H0008	土師器	壺	Eトレンチ 拡張区 SP-28 (SB-102)	口径: 27.3 (復元) 高径: 6.7 (残存高)	10	口縁部外面: ナデ (2次焼成の為赤変) 口縁部内面: ココナデの後ナデ 体部外面: タテハケ 体部内面: ナデ	内外: 緑赤褐 5 YR 5 / 6	粗い 石灰、長石を多量に含む	良好	
62	H0037	土師器	埴	Eトレンチ 拡張区	底径: 8.0 (復元) 高径: 1.4 (残存高)	20	体部内外面: 回転ナデ 底部内面: 回転ナデ 底部外面: ヘラ切り	内外: 緑 7.5 YR 6 / 6	精良 石灰、クサリ礫含む	良好	
63	H0022	土師器	皿	Eトレンチ 拡張区 SP-32	底径: 6.2 (復元) 高径: 2.0 (残存高)	40	体部外面: 回転ナデか? 底縁外面: ヘラ切りの後ナデ	内外: 淡黄緑 7.5 YR 6 / 3 灰黄緑 7.5 YR 7 / 1 緑灰 2.5 YR 6 / 1	精良 石灰含む	良好	断面芯部、底色
64	H0036	土師器	皿	Eトレンチ 拡張区	底径: 7.2 (復元) 高径: 1.3 (残存高)	20	体部外面: 回転ナデ 内面: ナデ 底部外面: 回転丸切り後、肩部が欠損	外: にぶい黄緑 10 YR 6 / 3 内: にぶい緑 7.5 YR 6 / 4 褐灰 7.5 YR 5 / 2	精良 長石、クサリ礫含む	良好(軟質)	
65	H0030	土師器	壺	Eトレンチ 拡張区	高径: 4.2 (残存高)	5	口縁部: ココナデ 体部外面: 磨面不能 体部内面: ナデ	外: 赤褐 2.5 YR 4 / 8 内: 緑赤灰 2.5 YR 3 / 1	粗い 石灰、長石多量	良好	
66	H0019	土師器	壺	Eトレンチ 拡張区 SP-23	高径: 3.1 (残存高)	5	外面: ココナデ 内面: ハケの後、横方向ナデ	外: 暗褐 7.5 YR 3 / 3 内: にぶい緑 7.5 YR 5 / 4	やや粗い 1～2mm大石灰、長石多量	良好	
67	H0015	土師器	壺	Eトレンチ 拡張区	口径: 25.0 (復元) 高径: 5.3 (残存高)	5	口縁部内外面: ココナデ 体部外面: タテハケ(肩部に強く、一部ケズリ気味) 体部内面: ナデ (口コ方向)	内外: 赤褐 10 R 6 / 8	粗い 1mm大石灰、長石、金雲母 多量		
68	H0029	土師器	壺	Eトレンチ 拡張区	口径: 29.8 (復元) 高径: 5.4 (残存高)	5	口縁部: ココナデ 体部外面: コビオサエ、タテハケ 体部内面: 不削	内外: 緑 7.5 YR 4 / 6	粗い 1～4mm大石灰、長石、 チャート、金雲母多量	良好	体部外面にスス付着
69	H0028	土師器	皿	Eトレンチ 拡張区	口径: 12.2 (復元) 高径: 1.5 (残存高)	20	口縁部: ココナデ (「て」の字状に磨削) 体部内面: コビオサエ 体部内面: ナデ	内外: 緑 2.5 YR 6 / 6	精良 石灰、黒石粒少量、 クサリ礫、金雲母含む	良好	「て」の字状口縁部
70	H0021	土師器	皿	Eトレンチ 拡張区 SP-32	高径: 1.3 (残存高)	5	口縁部: ココナデ (「て」の字状に磨削) 体部外面: コビオサエ 体部内面: ナデ	外: 灰黄 2.5 Y 7 / 2 内: 明黄緑 10 YR 7 / 6	精良 石灰、長石粒少量含む	良好	「て」の字状口縁部
71	H0054	土師器	皿	No.3調査区 ビット	口径: 11.0 (復元) 高径: 2.3 (残存高)	20	口縁部: ココナデ 体部外面: コビオサエ 体部内面: ナデ	外: にぶい緑 2.5 YR 6 / 3 内: 緑 2.5 YR 6 / 6	精良	良好	
72	H0051	土師器	皿	No.3調査区 ビット	口径: 14.8 (復元) 高径: 1.4 (残存高)	10	口縁部: ココナデ (「て」の字状に磨削) 体部外面: コビオサエ 体部内面: ナデ	外: にぶい緑 7.5 YR 6 / 4 内: にぶい黄緑 10 YR 6 / 4	精良 石灰黄緑含む	良好	「て」の字状口縁部
73	H0052	土師器	皿	No.3調査区 ビット	高径: 3.0 (残存高)	20	内外面: コビオサエによる凹凸が激しい	内外: 淡黄緑 7.5 YR 6 / 4	粗い 1～2mmの石灰、長石多量	良好	
74	H0038	土師器	鉢	Eトレンチ 拡張区	口径: 2.5 (復元) 高径: 4.8 (残存高)	5	表面剥離のため観察不能、上部に破断面	内外: 緑 5 YR 7 / 8	精良 石灰、クサリ礫含む	良好	
75	H0053	土師器	土鍋	No.2調査区	口径: 19.2 (復元) 高径: 5.1 (残存高)	10	口縁部: ココナデ 体部外面: 叩き (右上がり) 内面: ナデ	外: 淡黄緑 7.5 YR 8 / 4 灰黄緑 10 YR 6 / 2 内: 緑 5 YR 7 / 6	やや粗い 長石、クサリ礫多量	良好	
76	B0020	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-54 (SA-101)	底径: 7.2 (復元) 高径: 1.5 (残存高)	10	調整は観察不能 内面: 黒色 貼りつけ磨面	外: にぶい黄緑 10 YR 7 / 4 内: 灰黄 2.5 Y 4 / 1	精良 クサリ礫、石灰含む	良好	
77	B0007	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-64 (SA-101)	底径: 6.3 (復元) 高径: 2.4 (残存高)	10	調整は観察不能 内面: 黒色 貼りつけ磨面	外: にぶい黄緑 10 YR 7 / 4 内: オリーブ黒 5 Y 3 / 1	精良 石灰、長石含む	良好	
78	B0002	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-03 (SB-101)	底径: 7.4 (復元) 高径: 2.3 (残存高)	30	調整は観察不能 内面: 黒色 貼りつけ磨面	外: にぶい緑 7.5 YR 7 / 4 内: 黒 5 Y 2 / 1	精良 長石、クサリ礫含む	良好	
79	B0001	黒色土器	埴	Eトレンチ SP-01 (SB-101)	口径: 13.8 (復元) 底径: 7.0 (復元) 高径: 4.4	70	体部外面: 回転ナデの後ミガキ、高台付近はナデ 内面: 丁寧なミガキ、黒色 貼りつけ磨面 (肩部に直をもつ)	外: 明黄緑 5 YR 5 / 6 内: 黒 N 1.5 内: 黒 N 2 /	精良	良好	
80	B0006	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-27 (SB-102)	口径: 15.6 (復元) 底径: 8.2 (復元) 高径: 5.6	40	体部外面: 回転ナデ 内面: 丁寧なミガキ、黒色 貼りつけ磨面 (高台基部に凹み)	外: 緑 5 YR 6 / 6 内: 黒 N 2 /	精良	良好	
81	B0010	黒色土器	埴	Eトレンチ SX-01	底径: 2.9 (復元) 高径: 6.0 (残存高)	10	外面: 磨面のため観察不能 内面: ミガキ (磨面削しい)、黒色 貼りつけ磨面	外: 緑 5 YR 7 / 6 内: 褐灰 5 YR 4 / 1	精良 石灰、長石、 2mm大のクサリ礫含む	良好	
82	B0003	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-26 (SB-102)	底径: 7.8 (復元) 高径: 2.4 (残存高)	30	体部外面: 回転ナデ 体部内面: ミガキ、黒色 貼りつけ磨面	外: にぶい黄緑 10 YR 7 / 4 内: 黒 N 2 / 1	精良 1～2mm大石灰、長石、 クサリ礫多量、金雲母含む	良好	
83	B0005	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-27 (SB-102)	口径: 15.5 (復元) 底径: 8.0 (復元) 高径: 5.3	70	外面: 回転ナデ、強いナデにより肩部の彫削が顕著 内面: 丁寧なミガキ、黒色 貼りつけ磨面 (やや外方に傾く)	外: にぶい緑 5 YR 5 / 4 内: 黒 N 2	精良	良好	
84	B0022	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区	底径: 7.8 (復元) 高径: 1.8 (残存高)	40	体部外面: 回転ナデ 内面: ミガキ、黒色 底部外面: ヘラ切り、ナデ 底部内面: 磨面不能 底部外側にも交差の可能性あり	外: にぶい緑 7.5 YR 7 / 4 内: 褐灰 N 3 /	やや粗い 長石、クサリ礫含む	良好	底部を打ち交し、強い凹状の 磨面を作った可能性あり
85	B0013	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-22	底径: 8.4 (復元) 高径: 2.5 (残存高)	30	体部外面: 回転ナデ 内面: ミガキ、黒色 底部外面: ナデ 貼りつけ磨面	外: にぶい黄緑 10 YR 7 / 4 内: 褐灰 N 3 /	精良 クサリ礫少量含む	良好	
86	B0018	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区	底径: 8.0 (復元) 高径: 3.0 (残存高)	30	体部外面: 回転ナデ 体部内面: ミガキ、黒色 貼りつけ磨面	外: にぶい緑 7.5 YR 7 / 4 内: 黒 2.5 Y 2 / 1	精良 石灰、長石、クサリ礫、 金雲母含む	良好	
87	B0019	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区	口径: 16.2 (復元) 底径: 9.0 (復元) 高径: 5.4	50	体部外面: 回転ナデ 体部内面: ミガキ、黒色 貼りつけ磨面	外: 淡黄緑 10 YR 8 / 3 内: 黒 2.5 Y 2 / 1	精良 1mm大石灰、長石、 クサリ礫、金雲母含む	良好	
88	B0025	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区	口径: 12.2 (復元) 高径: 2.2 (残存高)	10	外面: 回転ナデ 内面: ミガキ	内外: 黒 7.5 Y 2 / 1	精良 機軸の金雲母	良好	
89	B0016	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区 SP-32	口径: 15.2 (復元) 高径: 4.0 (残存高)	20	外面: 回転ナデ (口縁部付近に強い回転ナデの跡あり) 内面: ミガキ、黒色	外: 緑 7.5 YR 7 / 6 内: 黒褐 7.5 YR 3 / 1 内: 灰白 7.5 YR 8 / 2	精良 石灰含む	良好	
90	B0021	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区	口径: 14.2 (復元) 底径: 7.3 (復元) 高径: 4.8	30	外面: 回転ナデ 内面: ミガキ (口縁部に回転ナデ痕残る)、黒色 貼りつけ磨面	外: 淡黄緑 10 YR 8 / 3, 8 / 4 内: 褐灰 7.5 YR 4 / 1 黒褐 7.5 YR 3 / 1	精良 クサリ礫含む	良好	
91	B0023	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区	底径: 7.6 (復元) 高径: 1.7 (残存高)	40	体部外面: 観察不能 体部内面: 平行する磨面あり、炭素付着 弱い 底部外面: ナデ調整 貼りつけ磨面 底部外側にも交差の可能性あり	外: 淡黄緑色 10 YR 7 / 4 内: 灰白色 10 YR 8 / 2	精良	良好	底部を打ち交し、強い凹状の 磨面を作った可能性あり 内面に平行する複数の磨面
92	B0024	黒色土器	埴	Eトレンチ 拡張区	口径: 18.0 (復元) 高径: 2.2 (残存高)	10	内外面: ヘラミガキ 口縁縁部は回転ナデ 口縁部内側に交差 (1条)	外: 黒色 2.5 Y 2 / 1 内: 黒黄緑 5 YR 2 / 2	精良 長石含む	良好	
93	G0001	瓦器	埴	Eトレンチ 拡張区	口径: 14.0 (復元) 高径: 4.2 (残存高)	30	内外面: 横方向のナデ 内面は洗剤磨面	外: 黒 N 2 / 内: 灰白 5 Y 7 / 2	精良 石灰少量	良好	回転ナデによる調整の可能性 あり
94	N0001	緑釉陶器	埴	Eトレンチ SP-03 (SB-101)	口径: 13.7 (復元) 底径: 7.0 (復元) 高径: 4.0	90	名施釉は、高台裏まで全面に及ぶ 口縁部は僅かに外反 体部内面: ミガキの後施釉 底足部に強い沈線 (弱い横線) 内面にへう状の「×」、印あり 底足部: ケズリ出た台座面	釉薬: 淡黄緑色 素釉: 淡黄緑 8 / 3	精良	良好	表面は淡黄緑色の素釉 京都洛西産
95	N0002	緑釉陶器	埴	Eトレンチ 拡張区	口径: 17.0 (復元) 高径: 4.0 (残存高)	20	外面: 口縁部回転ナデの後ヘラミガキ、下部は半磨面 内面: ヘラミガキ、底足部に強い横線あり	釉薬: 淡黄緑 素釉: 淡黄緑 5 YR 3 / 3	精良	良好	京都洛西産

漁具

遺物No	種 別	器 種	出土地点（遺構）	出土層位	法 量（cm）	残存率（％）	形態・技法の特徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考	
96	H 0003	土師器	イイダコ壺	Eトレンチ 拡張区 SP→09（SB→101）	箱高：4.3（残存高）	20	両手部：指頭による成形 体部内面：板ナデ（同心円状）	内外：赤灰 2.5 YR 4 / 1	やや粗い 石英、長石、チャート粒	良好		
97	H 0045	土師器	イイダコ壺	Eトレンチ 拡張区 SP→02（SA→101）	箱高：4.3（残存高）	20	両手部：指頭による成形 体部内面：ユビオサエ	内外：にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	やや粗い 石英、長石、クサリ礫含む	良好		
98	H 0033	土師器	イイダコ壺	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土	箱高：4.8（残存高）	20	両手部：指頭による成形 体部内面：ナデ	内外：灰 5 Y 6 / 1	やや粗い 石英、長石、金雲母含む	やや不良	
99	H 0034	土師器	イイダコ壺	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土	箱高：3.9（残存高）	20	両手部：指頭による成形 体部内面：ユビオサエ	内外：明黄褐 10 YR 7 / 6	やや粗い 石英、長石、クサリ礫含む	良好(軟質)	両手肩部が赤く染みしており、 二次的に火を受けた可能性あり
100	H 0039	土師器	イイダコ壺	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土	箱高：4.2 箱高：4.8（残存高）	30	両手部：指頭で形成後ナデ 内面：ユビオサエ	内外：橙 7.5 YR 7 / 6 明黄褐 10 YR 7 / 6	やや粗い 砂粒多量、長石含む	良好	
101	H 0023	土師器	イイダコ壺	Eトレンチ 拡張区 SP→37	口径：5.0（復元） 底径：7.4（復元） 箱高：7.2（残存高）	40	体部外面：上部に縦方向ナデ、 下部に縦方向ナデ、 下1/4に粘土結核を含む 体部内面：上部にユビオサエ、 下部部に縦方向ナデ	外：明黄褐 10 YR 6 / 6 灰 9 / 5 内：橙 5 YR 7 / 6	やや粗い クサリ礫、砂粒、長石含む	良好		
102	H 0001	土師器	イイダコ壺	Cトレンチ	灰茶色砂質土	口径：4.0（復元） 底径：7.0（復元） 箱高：12.2	80	両手部：指頭による成形 体部外面：縦筋不能 体部内面：ナデ	内外：橙 2.5 YR 6 / 8	やや粗い 石英、長石、クサリ礫含む	良好	
103	H 0002	土師器	イイダコ壺	Eトレンチ 拡張区 SP→06（SB→101）	口径：5.0（復元） 底径：6.6（復元） 箱高：11.4	60	両手部：指頭による成形 体部外面：ナデ、強いヨコ方向ナデ 体部内面：ナデ、ヘラ状工具	内外：浅黄 2.5 Y 7 / 3	やや粗い 石英、長石、クサリ礫含む	良好		
104	H 0035	土師器	有満土罐	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土	全長：5.9（残存長） 最大幅：4.0（残存幅） 厚み：3.7 重さ：41.6（残存重）	40	上面：ナデ、欠損している部分あり 側面：ヘラ状工具による成形	内外：にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	精良 石英、クサリ礫多量	やや不良 （軟質）	
105	H 0025	土師器	有満土罐	Eトレンチ 拡張区 SP→41	全長：8.3 最大幅：4.0 厚み：3.8 重さ：116.9g	100	ナデ、ヘラ状工具による成形	内外：明褐 7.5 YR 5 / 6 黒褐 7.5 YR 3 / 2	やや粗い 石英、クサリ礫、 金雲母多量	良好		
106	H 0024	土師器	有満土罐	Eトレンチ 拡張区 SP→40	全長：6.8 最大幅：4.3 厚み：3.7 重さ：93.8g	100	ナデ、ヘラ状工具による成形	にぶい橙 7.5 YR 5 / 4	やや粗い 長石多量、クサリ礫、 金雲母少量	良好		
107	H 0031	土師器	有満土罐	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土	全長：7.1 最大幅：4.3（残存幅） 厚み：2.1（残存厚） 重さ：55.7g（残存重）	50	ナデ、ヘラ状工具による成形	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	やや粗い 石英、クサリ礫、チャート、 長石含む	やや不良	
108	H 0032	土師器	有満土罐	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土	全長：7.1 最大幅：4.0 厚み：3.7 重さ：93.6g	100	ナデ、ヘラ状工具による成形	にぶい橙 7.5 YR 5 / 4	粗い 長石多量、クサリ礫、 金雲母少量	良好	
109	T 0005	製造土器	脚台Ⅰ	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土	底径：3.4 箱高：4.2（残存高）	10	外面：叩き（右下がり）	内外：橙 7.5 YR 7 / 6	やや粗い 石英、長石、クサリ礫含む	良好	
110	T 0004	製造土器	脚台Ⅱ	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土	底径：5.0（復元） 箱高：2.2（残存高）	5	外面：叩き（右下がり）	内外：橙 5 YR 6 / 6	やや粗い 石英、長石多量	良好	
111	T 0023	製造土器	脚台Ⅱ	Ⅱ-3調査区	黒褐色砂	底径：5.6（復元） 箱高：2.7（残存高）	5	体部内面：ヘラ状工具によるナデ 脚部外面：ユビオサエ 脚部内面：ナデ	外：にぶい橙 7.5 YR 7 / 4 灰白 2.5 Y 7 / 1 内：にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	やや粗い 石英、長石含む	良好	
112	T 0008	製造土器	脚台Ⅱ	Ⅱ-3調査区	縮灰茶色砂質シルト混	底径：5.0（復元） 箱高：2.4（残存高）	5	体部外面：叩き 脚部内面：ナデ 脚部外面に叩きによる刻み目状の痕跡	外：にぶい橙 5 YR 6 / 4 内：にぶい橙 5 YR 7 / 4	やや粗い 長石含む	良好	脚部部に叩き痕跡
113	T 0017	製造土器	脚台Ⅱ	Ⅱ-3調査区	黒色砂	底径：5.6（復元） 箱高：1.2（残存高）	5	外面：ユビオサエ 内面：ナデ	内外：にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	やや粗い 石英、長石含む	良好	二次焼成を受ける
114	T 0009	製造土器	脚台Ⅱ	Ⅱ-3調査区	黒色砂	底径：7.8（復元） 箱高：2.2（残存高）	5	体部外面：叩き（右上がり） 体部内面：ナデ 脚部内面：ユビオサエ 脚部外面：ナデ 脚部外面に叩きによる刻み目状の痕跡	内外：にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	やや粗い 石英、長石含む	良好	脚部部に叩き痕跡
115	T 0020	製造土器	脚台Ⅱ	Ⅱ-3調査区	黒色砂	底径：4.9（復元） 箱高：2.9（残存高）	10	体部外面：叩き（右上がり） 体部内面：ヘラ状工具によるナデ 脚部外面：ユビオサエ 脚部内面：ナデ	内外：にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	やや粗い 石英、長石含む	良好	二次焼成を受ける
116	T 0019	製造土器	脚台Ⅱ	Ⅱ-3調査区	黒褐色砂	底径：5.4（復元） 箱高：3.1（残存高）	20	体部外面：叩き（右上がり） 体部内面：ヘラ状工具によるナデ 脚部内面：ユビオサエ 脚部外面：ナデ 脚部外面に叩きによる刻み目状の痕跡	内外：橙 7.5 YR 7 / 6	やや粗い 石英含む	良好	脚部部に叩き痕跡
117	T 0010	製造土器	脚台Ⅲ	Ⅱ-3調査区	黒色砂	底径：3.4（復元） 箱高：2.4（残存高）	10	外面：ユビオサエ 内面：ナデ	内外：橙 5 YR 7 / 6	粗い 石英、長石多量	良好	二次焼成を受ける
118	T 0012	製造土器	脚台Ⅲ	Ⅱ-3調査区	黒色砂	底径：3.4（復元） 箱高：2.4（残存高）	20	外面：ユビオサエ 内面：ナデ	内外：にぶい橙 5 YR 6 / 4	やや粗い 石英、長石含む	良好	二次焼成を受ける
119	T 0013	製造土器	脚台Ⅲ	Ⅱ-3調査区	黒色砂	底径：4.1（復元） 箱高：1.7（残存高）	5	外面：ユビオサエ 内面：ナデ	外：橙 2.5 YR 6 / 6 にぶい橙 5 YR 7 / 4 内：にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	やや粗い 石英、長石含む	良好	二次焼成を受ける
120	T 0007	製造土器	Ⅱ-3調査区	黒色砂	口径：14.0（復元） 箱高：3.7（残存高）	10	外面：叩き（右上がり）の後ナデ 内面：ナデ	外：にぶい橙 7.5 YR 5 / 3 にぶい橙 7.5 YR 7 / 4 内：橙 5 YR 6 / 6	精良 クサリ礫含む	良好		
121	T 0021	製造土器	Ⅱ-3調査区	黒褐色砂	箱高：2.3（残存高）	5	外面：叩き（右上がり）、曜面に叩き 内面：ナデ	外：灰黄橙 10 YR 5 / 2 内：にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	やや粗い 石英、長石含む	良好	口縁曜面に叩き痕跡	
122	T 0011	製造土器	Ⅱ-3調査区	黒褐色砂	箱高：2.5（残存高）	5	外面：叩き（右上がり）、曜面に叩き 内面：ナデ	内外：にぶい橙 7.5 YR 6 / 3	やや粗い 石英、長石含む	良好	口縁曜面に叩き痕跡	
123	T 0003	製造土器	丸底Ⅳ	Eトレンチ 拡張区 SP→20	口径：12.4（復元） 箱高：9.0（残存高）	20	外面：ナデ、ユビオサエ 内面：下から上へナデ （指頭によるナデの前縁が明瞭）	内外：橙 7.5 YR 7 / 6	粗い 石英、長石、クサリ礫、 チャート多量	良好		
124	T 0001	製造土器	丸底Ⅳ	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土	箱高：6.0（残存高）	10	口縁部内面：ユビオサエ 口縁部外面：ユビオサエ（白い付着物） 体部外面：縦筋不能 体部内面：ユビオサエ	内外：赤橙 10 R 6 / 8	やや粗い 石英、長石、チャート、 クサリ礫多量	良好	内外面強い縦筋によりピンク 色に染み出し、内面に白色付着 物が認められる

石器

遺物No	器 種	出土地点（遺構）	出土層位	法 量（cm）	重 さ（g）	材 質	色 調	備 考
1	S 0002	剥片	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土 全長：4.6 最大幅：2.7 厚さ：1.0	10.3	スズカイト		背面は自然面
2	S 0001	砥石	Eトレンチ 拡張区	粘土 全長：18.7 最大幅：7.0 厚さ：2.1	547.8	泥岩		
3	S 0033	軽石	Eトレンチ 拡張区	縮灰茶色砂質土 全長：9.5 最大幅：8.0 厚さ：4.3	79.1	軽石	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	

鉄器

遺物No	器 種	出土地点（遺構）	出土層位	法 量（㎖）	備 考
1	M 0002	鉄鍔	Eトレンチ 拡張区 SP→48	全長：7.6（残存） 鍔身長：5.9 刃幅：3.2 鍔幅：1.6 鍔身厚：0.5 刃幅：0.7 茎厚：0.5	
2	M 0001	棒状鉄器	Eトレンチ 拡張区 SP→35	全長：4.2（残存） 幅：0.45 全長：2.7（残存） 厚：0.4	
3	M 0004	釘	Eトレンチ 拡張区	頭部長さ：1.3 頭部幅：0.7 刃部長さ：0.3～0.5	
4	M 0003	板状鉄器	Eトレンチ 拡張区 SP→52	全長：5.1 幅：2.4 厚さ：0.2～0.4	